

レンガリ灌漑計画（フェーズ2）【インド】

施策所管局課 国別開発協力第二課

評価年月日 令和7年4月

| 1 案件概要 | |
|----------------------------------|---|
| (1) 供与国名 | インド共和国 |
| (2) 案件名 | レンガリ灌漑計画（フェーズ2） |
| (3) 目的・事業内容 * 閣議決定日、供与条件などを含む | <p>インド東部のオディシャ州ブラマニ川流域において、灌漑施設の新設及び水利組合の組織化や営農指導支援等を実施することにより、同州における農業生産の増加・多角化を図り、もって農業所得の向上を通じた貧困問題の改善に寄与するもの。</p> <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木工事（幹線水路、支線水路、末端ほ場内整備） ・技術支援・体制強化（営農指導、水利組合組織化、末端施設維持管理等） ・コンサルティング・サービス <p>ア 閣議決定日：平成27年3月27日 イ 供与限度額：339.59億円 ウ 金利：0.70%（コンサルティング・サービスについては0.01%） エ 償還（据置）期間：15年（5年） オ 調達条件：一般アンタイド</p> |
| 2 事業の評価 | |
| (1) 経緯・現状 | <p>ア 社会ニーズの現状</p> <p>本事業の計画当初、農業はインドの全労働人口の半分以上が従事し、人々の雇用確保や生計向上を支える重要部門である一方で、農業生産が国内総生産に占める割合は約14%（2011年）にすぎず、農村部の貧困は深刻であった。さらに、同国における急激な人口増加に対応するため、農業生産の拡大とそのため水資源開発が必要とされており、灌漑施設の新設等を実施することが不可欠な状況となっていた。</p> <p>現在においても、農業生産が国内総生産に占める割合は約16%（2023年）と依然として小さいものの、農業が主要な雇用部門を担っている。また、人口増加が続いて</p> |

| | |
|-------------------------------|--|
| | <p>おり、農業生産の拡大及び水資源開発の必要性が引き続き見込まれることから、現在も本事業に関する社会的ニーズがある。</p> <p>イ 事業遅延に関する経緯・現状</p> <p>事業実施機関による用地取得の遅れ等により遅延が生じたが、現在、用地は94%取得済みであり、残りの用地につき取得継続しつつ、工事実施中。本事業の目標値である総灌漑面積（39,416ha）のうち、現時点で約44%（17,158ha）が進捗。全体工事は2029年に終了見込み。</p> |
| <p>（2）今後の対応方針</p> | <p>本件に関する社会的ニーズは依然としてあり、事業完成後は当初予定どおりの効果が見込まれているため、引き続き用地取得の状況をフォローしつつ、本事業の支援を継続する。</p> |
| <p>3 政策評価を行う過程において使用した資料等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 ・ 政策評価法に基づく事前評価書 ・ 国際協力機構の案件検索 ・ 国際協力機構の事業事前評価表 ・ そのほか国際協力機構から提出された資料 |